

第6期幸区区民会議（第3回）会議録

日時 平成29年3月21日（火）18:00～19:00
場所 幸区役所4階第3・4会議室
出席者数 委員18人、参与0人、事務局16人
傍聴者数 0人

開始時間 18:00

司会（田村副区長）

皆さん、こんばんは。本日は年末のお忙しい中、また足元の悪い中、お集まりいただきましてありがとうございます。

私は、幸区役所副区長の田村と申します。どうぞよろしくお願いたします。

第3回第6期幸区区民会議を開催するにあたり、事務局より御報告がございます。

幸区保護司会から推薦をいただき、御就任いただいております板橋洋様におかれましては、御都合により本年1月4日付で退任され、同会から後任の委員として、大野勝彦様を御推薦いただきました。1月5日付で委嘱状の交付をさせていただいております。

後ほどの議事の中で、就任の御挨拶と所属専門部会の決定手続を行わせていただきたく存じますので、どうぞよろしくお願いたします。

1 開会

司会

それでは、改めまして、ただいまから第3回第6期幸区区民会議を開催させていただきます。

初めに、配布資料の確認をさせていただきます。

〔資料確認〕

それでは、まず初めに本日の会議の定足数を御報告させていただきます。ただいま委員総数20名のうち14名の出席を得ておりますので、川崎市区民会議条例第6条第2項の規定により、本会議は成立していることを御報告いたします。

本会議は、川崎市審議会等の会議の公開に関する条例における会議公開の対象となっております。

〔会議公開、写真撮影、録音及び取材の確認〕

それでは、改めまして、ただいまから会議を開催いたします。

初めに、成川委員長から開会に当たっての御挨拶と、引き続きまして議事の進行をお願したいと存じます。

なりかわいんちよう
成川委員長

皆様、こんばんは。本日は第3回目の区民会議となります。

11月28日の第2回区民会議全体会議から、これまで各専門部会で3回ずつ会議を行ってまいりました。それぞれ活発な審議を経て部会ごとの具体的な取組の方向性も固まってきたようですので、本日はそうした点を中心に話し合いができればと思います。本日も皆様から多くの御意見をいただきたいと考えておりますので、どうぞよろしく願いいたします。

それでは、本日の進め方について申し上げます。まず、新任委員の所属専門部会についての審議を行った後、各専門部会の調査審議状況の報告を行います。各専門部会の調査審議状況の報告では、まず、「人にやさしい交通安全部会」から説明をいただいた後に全体での審議、意見交換を行います。その後、「魅力発信でつなぐまちの活性化部会」から同様に御説明をいただき、全体での審議、意見交換を行うといった流れで進めていきたいと思っています。なお、本日の会議の時間でございますが、19時20分ごろを目処に終了できるよう進めてまいりたいと思っておりますので、御協力のほどよろしくお願い申し上げます。

2 議事

(1) 新任委員の所属専門部会について

なりかわいんちよう
成川委員長

それでは、これより議題に入っております。

新任委員の所属専門部会についての審議を進めたいと思います。委員の交代については、冒頭で事務局から説明のあったとおりです。

それでは、1月から区民会議委員となった大野委員より、就任の御挨拶をお願いいたします。またあわせて、所属する専門部会の希望についてもお話してください。大野委員、お願いいたします。

おおのいん
大野委員

ただいま御紹介にあずかりました、保護司会から出てきました大野でございます。よろしくお話ししたいと思います。挨拶は短いようにといたしておりますので、短く、大野です。よろしくお話しします。

所属部会は、まちの活性化部会に所属させていただければと思います。よろしくお話しします。

なりかわいんちよう
成川委員長

それでは、「魅力発信でつなぐまちの活性化部会」に決定いたします。

(2) 各専門部会の調査審議状況の報告

成川委員長

それでは、これから幸区区民会議の調査審議状況、経過報告に入りたいと思います。資料1、またはスクリーンを御覧ください。

まず初めに、「人にやさしい交通安全部会」を代表して、橋本委員、報告をお願いいたします。

橋本委員

橋本です。人にやさしい交通安全部会の調査審議状況について御報告します。今回報告する内容はスライドに示すとおり、大きく5点になります。

まず、第1点目の「第2回区民会議での調査審議内容」について御説明します。11月に開催した第2回区民会議では、部会の取組の方向性として、さまざまな立場の人が区内道路で危険と感じる箇所の調査、さまざまな立場の人を対象としたわかりやすい交通マナー、ルールのお知らせや意識啓発の方法の検討について調査審議を行っていくことを御報告いたしました。

次に第2点目、「部会の開催状況」について御説明します。12月から3月にかけて3回の部会を開催しました。この間、幸警察署や「みんなで子育てフェアさいわい」において、交通安全に関する調査を実施してきました。これらの調査審議の中で、県内では7歳児の交通事故率が高いということを確認しました。それらを踏まえて私たち部会では、「子どもを守ること」に重点を置き、子どもにかかわるさまざまな立場の人への交通安全対策の推進を図っていくこととしました。

次に3点目で、「現況・課題の把握」について5つに分けて御説明いたします。

1つ目は、「平成28年度幸区区民アンケート調査結果の確認」です。幸区役所が平成28年8月から9月に実施したアンケート調査結果のうち、交通安全に関する区民の意識について部会で確認、共有しました。「10年後の幸区についてどのようなまちを目指すべきか」という質問では、「防犯、交通安全など、安全・安心な暮らしができるまち」と答えた人が、全体の約7割となりました。また、自転車事故をなくすために有効だと思う対策はという複数回答が可能な質問では、「自転車専用レーンの増設」が約7割、「自転車利用者、歩行者が各自交通ルールを守るように心がける」との回答が約5割となりました。以上の結果から、交通安全対策の推進は、区民の関心が高く、道路の整備や1人1人の心がけといったハード面とソフト面の両方が交通事故の防止には必要であると、多くの区民が意識していることが確認できました。

2つ目は、「幸警察署交通課課長へのヒアリング調査」についてです。1月30日、6人の委員で幸警察署に行き、調査を実施しました。幸警察署交通課長からは、区内の交通事故発生状況や交通安全に関する幸警察署の取組など、いろいろな話を

うかが
伺うことができました。

「交通事故が発生する要因」としては、気候や地形などの環境要因のほかにヒューマンエラーが大きく関わる。交差点・横断歩道付近では、事故の発生が多いといったことが挙げられました。

「区内の交通事故件数と今後の課題」については、人身事故の件数は過去5年間で減少していますが、物件事故については依然として多く、横ばい傾向となっていることです。地域、警察、行政が連携して、交通ルールを知らない、守らない人など、多くの人々への交通安全意識の向上を図ることが求められているとのことでした。

次のスライドは、幸警察署から情報提供を受けた「幸区内の歩行者関係事故発生箇所」をマップに起こしたものです。赤い丸が平成27年の事故、青い丸が平成28年の事故、丸の中にバツがあるものは重傷事故の発生箇所となっております。歩行者関連事故の傾向としては、尻手黒川道路などの主要幹線道路での事故の発生が多い、交差点付近での事故の発生が多い、2年連続で事故が発生している箇所があるといった点が挙げられます。

3つ目は、「今後の調査についての検討」です。私たちの部会では、交通安全対策の推進に向けて2つの調査の実施を検討しました。1つ目の調査は、「様々な立場の人が区内道路でヒヤリ・ハットを感じる箇所の調査」です。こちらは、ヒアリング調査先として、「みんなで子育てフェアさいわいの来場者」、「識字学級の受講者」、「幸区PTA協議会」のメンバーに調査を実施することとしました。すでに、みんなで子育てフェアさいわいと識字学級への調査は実施していますので、後ほど報告いたします。幸区PTA協議会への調査は今月調査票を配布し、来月に回収することとなっています。

2つ目の調査は、「認知度の低い交通ルールやマナーの調査」です。こちらは、ヒアリング調査先として、「区内小学生」と「幸区老人クラブ連合会」のメンバーに調査を実施することとしました。いずれも4月以降の調査実施を予定しています。子どもの事故では小学校低学年、特に環境に慣れた小学2年生の事故が多く発生しているという統計があります。そういった学年の子どもたちを対象に調査を実施することで、認知度の低い交通ルールやマナーを調べるのと同時に、理解するきっかけとなるよう、部会として取り組んでいきたいと思っております。

4つ目は、「『みんなで子育てフェアさいわい』におけるヒアリング調査」についてです。2月25日に日吉合同庁舎で開催した「みんなで子育てフェアさいわい」に区民会議ブースを出展し、来場者に「区内道路でヒヤリ・ハットを感じる箇所」の調査を実施しました。当日は5人の委員が調査に参加し、71人から95カ所の「ヒヤリ・ハット箇所」について回答を得ることができました。回答者の傾向として

は、30歳代と日吉地区在住が7割弱となりました。ヒヤリ・ハットを感じたときの状況としては、歩行時にヒヤリ・ハットを感じた場合が7割を超えました。参加した区民会議委員からは、「来場者が調査に協力的であった」、「区民の交通安全への関心が高いことを改めて感じた」、「段差や勾配によるベビーカーの押しづらさを指摘する声があった」といった感想がありました。

次のスライドは、「みんなで子育てフェアさいわい」で回答のあった「ヒヤリ・ハット箇所」をマップに起こしたものです。青い丸が「ヒヤリ・ハット箇所」となっています。回答の多くあった箇所は、「鹿島田跨線橋から北加瀬公園方面へ下る道」で8人から回答、「鹿島田踏切付近」で8人から回答、「夢見ヶ崎動物公園前のバス通り、日吉交番付近」で7人から回答がありました。日吉合同庁舎での開催であり、日吉地区在住の回答者が多かったため、「ヒヤリ・ハット箇所」も日吉地区に偏る傾向がありました。

5つ目は、「『識字学級』におけるヒアリング調査」についてです。3月8日に日吉分館で開催した「識字学級」にて、受講生に「区内道路でヒヤリ・ハットを感じる箇所の調査」を実施しました。当日は2人の委員が調査に参加し、5人の受講生から5カ所の「ヒヤリ・ハット箇所」について回答を得ました。回答者の傾向としては、30歳から60歳代の韓国、中国、マレーシア国籍の方となりました。ヒヤリ・ハットを感じた箇所としては、「ソリッドスクエア前の道はスピードを出す自転車がが多い」、「日吉交番付近は歩道に電柱があり、視界が悪い」などといった回答がありました。参加した区民会議委員からは、「回答箇所を見ると外国人特有の理由ではないと感じた。」「回答者からは『マナーの悪い日本人が多い』といった意見があり、区民会議としてしっかり活動しなくては」といった感想がありました。

以上のことを踏まえまして、4点目の具体的な取組内容について検討しました。初めに、「ヒヤリ・ハットを感じる箇所として意見の多かった箇所への現地調査の実施」について御報告します。検討の経過として、これまでの期間、さまざまな立場の人へヒヤリ・ハットを感じる箇所の調査を実施してきたところ、居住地や子育て世帯といった家族構成などによって危険と感じる箇所は異なり、それらの情報を交通事故の防止や交通安全意識の高揚に役立てる方策について検討することがよいのではないかと意見が出てきました。今後の取組としては、さまざまな立場の人を対象にヒヤリ・ハットを感じる箇所の調査を実施後、意見の多かった箇所への現地調査を実施し、結果を取りまとめていきたいと思えます。取りまとめた結果については、「視覚的に確認できるマップ」などによる発信についても検討していきたいと思えます。

次に、「認知度の低い交通ルールやマナーの把握と効果的な発信」について御報告します。検討の経過として、「交通事故の発生にはヒューマンエラーが大きな要因と

なっており、交通ルールやマナーを知らない、守らない人を少しでも減らしていく取組について検討することがよいのではないかと」いった意見が出てきました。今後の取組としては、交通ルール・マナークイズを作成し、幅広い世代にアンケートを実施し、正解率の低い項目について、効果的な普及啓発方法について検討していきたいと、思います。効果的な普及啓発方法の検討後は、区民祭など、人の多く集まるイベントでの発信についても検討していきたいと、思います。

最後に5点目、今後の部会の活動予定についてです。まず、「ヒヤリ・ハット箇所」への現地調査の実施については、さまざまな立場の人へのヒヤリ・ハットを感じる箇所の調査を4月までに実施します。その後、5月から7月に「ヒヤリ・ハット箇所」として意見の多かった箇所に現地調査を実施し、結果の検証を行っていきたいと、思います。次に、「認知度の低い交通ルールやマナーの把握と発信」については、交通ルール・マナークイズを4月上旬までに作成します。その後、4月、5月にそのクイズを活用した調査を実施します。7月ごろに調査結果をもとに認知度の低い交通ルールやマナーの効果的な普及啓発方法について検討していきたいと、思います。いずれも8月ごろに開催が予定されている「第4回幸区区民会議」で成果について御報告できると、思います。

以上で人にやさしい交通安全部会の調査審議の内容の報告を終わります。

成川委員長

ありがとうございました。「人にやさしい交通安全部会」から報告をいただきました。

それでは、全体での審議、意見交換を行いたいと思いますが、まず、今御説明いただいた事柄について、加えることや補足することがございましたら、部会のほうから御意見を伺いたいと思います。発表者以外の方、いかがでしょうか。

〔「なし」の発言あり〕

成川委員長

特にないということですか。

わかりました。それでは、魅力発信の部会の方、今日、初めてこの報告を伺っておりますので、何か御質問なり御意見なり、前向きなことがあればぜひお願いしたいと思います。いかがでしょうか。どなたかございませんか。伊藤さん、どうぞ。

伊藤委員

今回の調査は非常にスムーズにいったように拝聴させていただきました。ヒヤリ・ハットという着眼点は、工事現場でよく行う手法で、これは非常に良いと思いました。これを行うことで、ちょっとした危険が数多く見つければ、そこが重大事故につながるということの着眼点になり非常に良いと思いました。

また、7歳児の事故が特に多いという調査結果が出たことについても、非常によく

調べられているとおもいました。年齢層を絞っていけば、なお一層目的に向かって進んでいけるのではないかと思います。今後の成果を本当に楽しみにしたいと思っています。

成川委員長

ありがとうございました。大変評価の高いコメントがありました。ほかにいかがでしょうか。

今、7歳児の件が伊藤さんからありましたけれども、どちらからちょっとそのあたりについて補足的なお話をいただけるとありがたいのですが。

阿部（法）委員

部会長の阿部でございます。

7歳児が多いというのは神奈川県だけに特化されたものではなくて、全国でもいろいろ交通安全について調べているところから見ても、7歳児付近が非常に多く交通事故に遭っていると。そして、その振り分けとすると男児の7歳児。彼らは通学とか下校に限らず、遊んでいるとき、塾に行くとき、いつでも突発的にずっと道路に出たりする傾向があるということも掴ませていただいています。あとは、7歳児より落ちますけれども、御年配の方は御年配の方で御自分の交通ルールがあるらしくて、また事故が増えるという傾向もあるんですが、突出して7歳児という、全国平均でございます。

成川委員長

ありがとうございました。

ほかにはいかがでしょうか。どうぞ、佐野さん。

佐野委員

今7歳児という、子どもさんの事故は当然多いのかなと思っていますが、高齢者の関係での数値は今のところ出ておりませんか。

阿部（法）委員

調査の中では、確かに調べているんです。今ちょっと資料がないので。当然、いろんな事故の種類がありまして、例えば自転車ならば何歳ぐらいとかという細かいものもあるのですが、御年配の方はかなり歩行の部分、横断歩道でないところを渡るとか、このくらいの距離だったら赤信号でも渡っていきえるだろうというような事故が多いようです。年齢的には60代以上です。なかなか足がうまく動かなくなってくると、そのあたりも減ってくるんでしょうけれども、後ほど調べればそのあたりもわかります。

成川委員長

ありがとうございました。

佐野委員

ありがとうございます。高齢者も、これからは高齢化社会ということで、大分多くなってくるかなと思っております。そういう調査もしていただけると、また違った面での結果が出てくるのかなと思っておりますので、よろしくお願ひします。

阿部（法）委員

年代別で言うと65歳以上というところと、平成28年ですと70歳代というのが突出します。たまたま交通安全については、昨年が御年配の方を中心に自転車事故から守ろうということでやりましたので、今期に関しては子どものほうに移りました。

成川委員長

ほかにはいかがでしょうか。

私から1つよろしいですか。さまざまな立場の人へという言葉が随所に出てくるんですけれども、今、例えば7歳の男児とか、高齢者とかいろいろ出ていますし、私なんかは、逆に若い人の無謀なマナー違反もありますので、切り口をどう切っていくかで対策も、切り口とか対象によって異なる可能性もあると思うんです。そこはこれからの課題だと思ふんですけれども、阿部部会長、イメージとしてはどんなふうに、切り口、対象をセグメントとして対策をやるというのは結構難しいところだと思うんですけれども、イメージで結構なんです、コメントをいただけると大変ありがたいです。

阿部（法）委員

あくまでも私の私見です。これから皆さんと御相談しながら進めてまいります、まず、子どもたちというくくりの中で、学校というキーワードが1つあると思ひます。今、学校の中には、通常でいう健常者というんですか、普通に通えるお子さんもいます。特別支援を受けている特別支援学級というクラスもあります。そしてまた、普通学級の中にも車椅子で登校しているお子さん等々おりますので、さまざまなというのはいろんな立場に立ったというような部分、それと今学校では非常に外国人のお子さんが多く入学してきています。正直言うと日本語もままならないというお子さんも入ってきて、各教員の方が日本語から一生懸命教えています。だから、こういう生活の部分も教えているんだろうなと思ひています。そういう部分も踏まえて、子どもたちから見て、大人から見て、バスの運転手さんから見てというところで、いろんな切り口でどこが危ないんだろうと。逆に言うと、子どもの目線と言うと大人のこんなところが悪いですよという回答が来たりすれば、いろんな部分、さまざまなところがケアできていくのではないかなと。

15、16、17、18、高校生あたり、自転車通学とかするような方々は、確かに無謀な逆走自転車等々もあると思ひますが、このあたりもいろんな皆さんの意見の中からも出てきていますので、そこでケアしていきながら、何もかもというのがなかなか難しいものですから、大変申しわけないんですが、今年度は子どもを少し守っていこう

と、7歳児を守っていきこうというところで進んでいきこうと考えております。

成川委員長

ありがとうございました。ほかにございませんか。

特にないようでしたら、A部会のほうはこれで終わりますけれども、非常に高い評価をされていますので、今後の成果を期待しております。よろしく願います。

続きまして、「魅力発信でつなぐ まちの活性化部会」を代表して、阿部稔子委員から報告をお願いいたします。

阿部（稔）委員

よろしく願います。それでは、「魅力発信でつなぐ まちの活性化部会」の調査審議状況について御報告いたします。

今回報告する内容はスライドのとおり、大きく分けて5点となります。

まず、「第2回区民会議での調査審議内容」について御説明します。第2回区民会議では、当部会の「取組の方向性」について、「幸区の魅力となる地域資源の調査」と、「対象を意識した効果的な情報発信手段の検討」を行っていくこととしました。

次に、その後の部会の開催状況については、第3回部会では、「今後の調査内容、方法の確認」について審議をし、第4回部会では、「調査の進め方について」や「幸区の魅力（地域資源）について」、さらには、「今後の調査に向けた調査項目及び調査当日の役割分担について」、また、第5回部会では、「アンケート調査などの報告について」や「今後の調査審議について」議論しました。

次に、「現況・課題の把握」について御説明します。私たちの部会では、幸区区民アンケート調査結果を確認し、区民の幸区に対する愛着と幸区のどこがよいと感じているかについて把握しました。スライドに記載されていますとおり、「幸区の住みやすさ」については、約8割の人から住みやすいという回答を得られていることと、幸区のよいと感じるところについては、「交通の利便性」や、「買い物、病院などの日常生活の利便性」、「緑や公園などの自然環境」が上位に上がっていました。

次に、こうしたアンケート結果を踏まえて行った意見交換の中では、「区の魅力というのは小さい範囲ではなく、かなり広義のもの」だといった意見や、「利便性が住みやすい評価の一番大きな理由である」といった意見。「区外へのアピールとしては利便性、区内の住人に対しては拠点としての魅力を幾つか事例を出して分析、活用して発信していくというのを付け加えればいい。ターゲットは区民全体、とりわけ子育て世帯などが考えられる。『ここがあるから幸区が一番いいよね』と言ってもらえるようなものを整理してみるのがよい」といった意見がありました。

次に、こうした意見交換を踏まえ、各委員が考える幸区の魅力（地域資源）について意見を出し合いました。その一部が次のとおりとなります。「交通利便性や買い物

などの生活利便性)、 「新川崎があつてマンションがふえてきて、子どももふえた」、 「幸区独自という自然環境、夢見ヶ崎動物公園などがある」、 「塚越と小倉に陽だまりという拠点があるが、余り知られていない」、 「区が小さくコンパクトなので歩いて回れる」、 「安全・安心な区ではないか」、 「団体での活動を見ていると頑張っている母親が多い、人に魅力のある区」、 「子育て世代がふえてきたことにより、子育てサロンがふえている、各地域でそうしたものができているのは魅力の一つ」といったものがありました。

こうした意見交換を踏まえ、今後の調査の考え方について議論した結果、「自分たちも把握していないような幸区の魅力を発掘し、わかりやすく伝えていく」ことで、「幸区に住み続けてもらうこと」を最終的な目的としました。スライドに載っている図は、川崎市のシティブロモーション戦略プランの考え方で、「市内の魅力ある資源の発掘や魅力発信の強化を行うことで、市民のシビックプライドの醸成」がされ、「地域社会への参画」が高まることによって「魅力がさらに高まっていく」というポジティブスパイラルが示されたもので、目的の参考にもしていくこととしました。また、魅力発信を誰に対して行っていくかについては、30代、40代の子育て世帯を中心とすることとしました。また、その世代にPRすることによって、親世代への広がりも期待できると考えました。

これらを踏まえて、調査内容の検討を行いました。子育て世代向けの地域資源、活動情報を掘り起こし、それを発信していく魅力として活用することとし、「みんなで子育てフェアさいわい」と、「保育園に通う園児の保護者」を調査先としました。調査内容は、「幸区内のほかの人にもお勧めしたい魅力的な場所」や、「幸区をより魅力的にするためにはどのような『こと・もの』があるか」という地域資源の発掘に関するのと、「生活する上での情報の取得手段」を聞くことで、今後の情報発信手段の参考としています。

平成29年2月25日に、日吉合同庁舎で開催された「みんなで子育てフェアさいわい」での調査では、幸区の地図のボードにお気に入りのスポットをシールで貼ってもらい、その理由についてヒアリングしました。イベントは日吉地区で開催したので、魅力的な場所については夢見ヶ崎動物公園が多く上がってきました。その後の部会での振り返りの中では、「アンケートをとりながら、『楽しい、住みやすいところ』だ」という意見が出てきた、とても住みにくいということはない」といったことや、「父親も来ていて子育てするときの担い手が変わってきているところ、そこから視点をふやせるのかなと感じた」といったことがありました。

こちらのスライドがシールを貼ってもらった箇所を起こした地図になります。2番目に多かったものとしては、新川崎地区にある「さいわいふるさと公園」と「ラゾーナ川崎」が挙がっていました。

つぎに、「保育園に通う園児の保護者アンケート」では、公立7保育園と、委員を通じて協力が得られたどりーむ東小倉保育園を対象に2月20日から3月7日にかけてアンケートを実施しました。合計398名からの回答があり、一番多く挙げられたスポットは、「夢見ヶ崎動物公園」、2番目に「南河原公園」、3番目には「ラゾーナ川崎」が挙げられました。夢見ヶ崎動物公園がお気に入りの理由としては、「無料で動物が見られる」ことや「広い敷地にたくさんの自然がある」ことが多く挙げられ、「富士山だけでなく新幹線が見られる見晴らし」のことや、「古墳跡で歴史を知ることができる」ことも挙がっていました。南河原公園は、「広く子どもが走り回れること」や「子どもの楽しめる遊具がたくさんあり、遊ぶのに飽きない」ことが多く挙げられていました。ラゾーナ川崎は、家族で楽しめることや子ども用品も含めて買い物に便利ということが多く挙げられていました。

より「幸区を魅力的にするための『こと・もの』」については、「公園の設置や設備の充実に関すること」が一番多く挙げられ、2番目には「保育園の充実に関すること」が挙げられ、3番目には「イベントの充実に関すること」が挙げられております。「情報取得手段」については、「友人、知人から教えてもらうこと」が一番多く、2番目に「インターネットによる取得」、3番目には「市政だより」によって情報を得ることが多いことがわかりました。

ヒアリング調査と並行して、第5回部会では「今後の調査」について検討しました。これまでの調査では、乳幼児の保護者を対象としていましたので、今後はPTAや子ども会などの小中学生の保護者を対象にアンケート、ヒアリングを実施することと、これまでの調査では、日吉地区のイベントで情報収集を行いましたので、今後は機会を捉えて御幸地区、南河原地区でも情報収集を行っていくことを考えています。このような方向性を持ちながら、今後の取組としては、調査結果の検証及び発信していく地域の魅力についての確認と、魅力発信に向けた情報発信など手段の検討を進めていきます。

以上のような考えのもと、最後に今後の予定ですが、当面は「アンケートやヒアリング調査」を継続して実施し、地域資源の調査を行います。その後、調査結果の検証を行い、発信していく地域の魅力について確認します。

以上で「魅力発信でつなぐ まちの活性化部会」の調査審議の報告を終わります。

なりかわいんちよう
成川委員長

ありがとうございました。

「魅力発信でつなぐ まちの活性化部会」から報告していただきました。

それでは、全体での審議、意見交換を行いたいと思いますが、今説明いただいた事柄について、加えること、あるいは補足することがございましたら、御意見を伺いたいと思いますが、B部会のほう、いかがでしょうか。特によろしいですか。

それでは、今の報告につきまして、皆さんから御意見をいただきたいと思ひます。
いかがでしょうか。

飯島委員

川崎市のシテイプロモーション戦略プランとは何ですか。聞いたことがないんですけども、市の方、教えていただけますか。

成川委員長

事務局で御説明いただけますか。

事務局

事務局でございます。こちらは、川崎市の魅力発信を重点的に取り組んでいく部署におきまして、今後の川崎市のまちを売り込む、プロモーションしていく、そういった戦略立てた計画、考えをまとめた資料を部会の調査審議におきまして参考資料としてお示しし、そちらを参考にさせていただいたといった経過の御報告内容でございます。繰り返しになりますが、市内の魅力ある資源の発掘、魅力を発見しそれを伝えていくことによって、それを知った方が地域に対してさらに愛着を持っていただいて、それが活性化にもつながっていくようなポジティブスパイラルと表現しておりますが、平たく言うと好循環が生まれる、そういった仕組みは、部会の今後の調査審議の方向性としても一定の合致があるのではないかとということで、参考に取り入れていただいた、そのような経過でございます。

成川委員長

一言で言えば、今B部会の課題は幸区の魅力ですよね。今の資料というのは、川崎市全体の魅力をどうやって発掘して発信していくかという、戦略的にかなり大きな風呂敷を広げた話なので、それを幸区に落とし込めば、我々の部会にも大変役立つかなど、そういうふうに御理解いただければよろしいかと思ひます。

ほかにはいかがでしょうか。阿部委員どうぞ。

阿部（法）委員

いろいろな調査の中で幸区の魅力を改めて感じさせていただきまして、ありがとうございます。

この中で、26のところにある現況・課題の把握という中で、意外と私なんかからすると、多摩川というキーワードが出てこないというのがびっくりしたのと、あと公園関係、それと保育園です。物すごく改善という意味で、保育園なんて出てくるかなと思ひました。私は幸区ですごいなと思ひている保育園が、老人ホームと一緒にいる保育園があったりとか、URの中に保育園ができてみたりとか、幸区がやっているわけではないかもしれないんですけども、幸区には「おっ」と思ひするような保育園があったりする。逆に言うと、公園がいろいろありますよというお話なんですけれども、昼間に行くと保育園児たちが公園を取り合っている、御年配の方がちょっ

と休憩したいとか、ほっとしたいなどというところを妨げているような部分も見受けられたりもします。このあたりも今後の調査の中で出てきたら改善して、もっともつと魅力のある幸区を見つけてください。よろしくお願ひします。

成川委員長

ありがとうございます。

今の阿部委員の御意見に対して、伊藤さんどうですか。

伊藤委員

今、おっしゃった件は、我々も同じようなレベルで、多摩川というキーワードがないのはなぜだろうという疑問がありました。ただ、これはターゲットを30・40代に絞っているというところで、どうしても陽だまり的な子どもを遊ばせる場所とか、そういうところのスポットに行きたいとか、行ってよかったというアンケート結果が多かったというのは事実です。だから、もっともつと幅広の方から聞いてみれば、また別の見方が出てくるかと思ひています。私は御幸地区に住んでいるので、どうして御幸公園が出てこないのかなと思ひますが、やはり御幸公園の周りは、東芝の会社があつて、学校があつて、住宅街が少ない場所で、そういう意味においては、あそこに行くには交通の便の話まで出ていないけれども、そのあたりに問題があるのかなと思ひています。でも、あそこは幸区としてはこれからどんどんターゲットとして、「人がどうしてあそこへ集まらないのか」、「どうしたら集まるのか」ということは考へていく必要があるかと思ひています。ただ、今おっしゃった件については、年齢層をある程度絞っている関係で、そういう回答が出てこなかったのかなと思ひています。これからは若干幅広くやっていく必要性の課題だと思ひています。

成川委員長

ありがとうございます。

そのほかいかがですか。余りないようですけれども、B部会の部会長の神谷さん、一言。

神谷委員

B部会の部会長の神谷です。

我々が調査を行いました「子育てフェア」、日吉出張所でアンケート調査をやっておりますので、どうしても夢見ヶ崎動物公園の下でやっていますので多いんだらうと思ひます。それから、我々の委員の中ではもっともつと幅広の意見は出るんですけども、例えば、小向の競馬場のところとか、いろいろ見るべきところはあるなということですが、なかなかまだ全区に対してやっていないということで、これから保育園もそうですし、PTA、それから子ども会さんでアンケートをしていくということで、もうちょっと広がりが出てくるかなと思ひますので、それは請う御期待という形です。よろしくお願ひいたします。

なりかわいんちよう
成川委員長

ありがとうございました。

そのほか、意見、質問はございませんでしょうか。

それでは、特に御意見はこれ以上ないようですので、部会の報告についてはここで一旦終わりとしたいと思います。

では、副委員長にそれぞれの部会の報告と意見交換の全体をとおして、一言お願いしたいと思います。松井副委員長、よろしくお願ひします。

まついふくいんちよう
松井副委員長

では、両部会の発表をお伺いしてまとめをさせていただきたいと思ひます。

交通安全部会、魅力発信部会ともに、大体、テーマの方向性が見えてきたところで、そのとば口としていろいろヒアリングなどを始めて、まとめていこうかなというところだと思ひます。それで、こちらの両部会ともにヒアリング、アンケートをかなり多用して、自分たちの思い込みを避けているというところがあると思ひます。市民の方たちがどういうことを考えていらっしゃるかということ、真摯に皆さん検討していらっしゃるんだなということで、大変感心いたしました。また、交通安全部会のほうで7歳児のお話が出て、本当に命に直結する大事なことで、一人でも多くの命が失われないように、ここが大事だよというところを見つけていただければやはりうれしいと思ひます。よろしくお願ひいたします。

なりかわいんちよう
成川委員長

ありがとうございました。

(3) 今後のスケジュール

なりかわいんちよう
成川委員長

それでは続きまして、今後のスケジュールについて確認したいと思ひます。

資料2を御覧ください。来年度4月以降の予定については、第6回目の専門部会として、「人にやさしい交通安全部会」が4月20日、「魅力発信でつなぐ まちの活性化部会」が4月25日にそれぞれ開催される予定となっております。また、5月、6月につきましても、資料に記載の日程で各部会を開催し、さらに7月の部会を経て、8月には第3回目の企画運営会議を挟み、第4回目の全体会議を開催していく予定となっております。7月、8月の具体的な日程につきましては、今後、事務局から日程調整の依頼をお送りいたしますので、御協力のほど、よろしくお願ひいたします。

3 その他

なりかわいんちよう
成川委員長

続きまして、その他について、事務局からありましたらお願ひいたします。

事務局

事務局でございます。各部会における調査審議テーマに関連いたします平成28年度の幸区役所の取組につきまして、事務局から資料提供をさせていただきたいと存じます。

それでは、本日お手元の参考資料の2及び3を御覧いただけますでしょうか。参考資料の2は、幸区役所の交通安全に関する主な取組（平成28年度）、そのような表題がついたA4、1枚の資料でございます。また、参考資料の3につきましては、御幸公園梅香事業推進計画の概要版及び梅香事業を特集したさいわい広報特別号でございます。現在、第6期の幸区区民会議の各専門部会におきまして調査審議をいただいております課題分野に関連する区役所の取組状況をそれぞれお示しさせていただくものでございます。

まず、参考資料2におきましては、交通安全に関する取組といたしまして、ステアード・ストレート方式を活用した交通安全教室を初め、幅広い年齢層を対象とした各種の交通安全教室や季節ごとの啓発活動などを関係機関や団体の御協力等をおこなうなど28年度に実施してまいりました内容を記載しております。

続きまして、参考資料3のほうでございます。幸区の魅力・資源に関するものでございまして、御幸公園に市民の皆様とともに、梅林を復活させることなどを目指しまして、本年2月に御幸公園梅香事業推進計画を策定したところでございまして、お手元にはその概要版を、また広報特別号につきましては、今後当該計画に基づき進めてまいりますさまざまな取組内容を掲載しております。既に、新聞折り込み等を通じて御覧になられた委員も多くいらっしゃるかと存じますが、改めまして、本日審議テーマの関連資料としてお配りさせていただきましたので、御一読いただければと存じます。

事務局からは以上でございます。

成川委員長

ありがとうございました。お持ち帰りいただいてよくお読みいただけたらと思います。

最後に事務局から何かありますでしょうか。

事務局

特段ございません。

成川委員長

特になければ、以上をもちまして全ての議題を終了いたします。委員の皆さんには長時間にわたり熱心に御審議をいただき、ありがとうございました。また、議事進行に当たっては、委員の皆様にご協力をいただいたことを感謝申し上げます。

それでは、事務局に進行を交代したいと思います。

4 閉会

司会

成川委員長、ありがとうございます。本日の会議録につきましては、事務局で作成した後、4月上旬ごろに皆様に郵送いたしますので、内容の御確認をお願いいたします。

それでは最後に、閉会に当たりまして、幸区長の上野から御挨拶を申し上げます。

区長

皆様、お疲れさまでございました。今年度になりまして、それぞれ両部会5回の部会を経て、今日一定のまとめの報告をいただいたと感じております。交通安全部会につきましては、先ほどから出ています7歳児ここが危険なんだと。やっぱり小学校に入ってちょっと慣れたところで、行動が活発になっていますので、そういったことが影響するのかなど。そしてまた、先ほどどなたかがおっしゃっていた高齢者について、御自分のルールで交通安全、交通ルールを使っていると。これは確かに言い得て妙だなと。本来のルール以外に、どうしても経験のある方々は御自分のルールが第一番なんだと考える傾向があるように感じています。ぜひ、そのあたりのところでいまいち、高齢者の方々にはフレッシュなイメージを持っていただくことも大事なかなと。特に交通安全に関しては、繰り返し繰り返し、しつこいと言われても何度も何度も広報啓発が必要だと考えておりますので、先ほど参考資料の中にもございました幸区におきましても、本当に何度も何度も春の交通安全、そして秋の交通安全、季節ごとに広報啓発もしております。それがやはり大事なことなんだという認識をしております。

また、「魅力発信でつなぐ まちの活性化部会」につきましては、今回のアンケート調査は私自身もちょっと偏った印象をやはり受けております。それは部会委員の方々もおっしゃっていたように、調査をした場所に影響されている部分もありますし、対象者の年齢層もありますし、あとは幸区には魅力が本当にたくさんあると思っております。今回の調査の手法の中で、どれだけ魅力を選択肢としてお示しして選ぶ形にできたか、そのあたりももしかしたらあるのかなど。私自身も幸区の中の魅力とは何でしょうと言われたときに、やはり行政の人間ですので、ミュージア川崎シンフォニーホールは世界に誇るコンサートホールだということはまず申し上げますし、個人的にはやはり夢見ヶ崎動物公園、そして東芝の未来科学館、そして南河原の桜、もうすぐきれいになります。そして最後に、今日も広報させていただいた御幸公園。歴史と文化の詰まった、母なる川多摩川を見ながらの御幸公園は本当に素晴らしい環境だと思っております。そういう意味ではいろいろな魅力をまず全部出してみて、そこから選ぶような形でいかれると、また年齢層による選び方、あるいは地域に

よる^{えら}かた^{かた}、いろいろあるんではないかなと思^{おも}って、今日^{きょう}、皆様方^{みなさまがた}の御報告^{ごほうこく}、あるいは御意見^{ごいけん}を幸区^{さいわいく}の中^{なか}でも非常^{ひじょう}に参考^{さんこう}にさせていただけると感じ^{かん}したところです。ちょうどここで28年度^{ねんど}が終了^{しゅうりょう}し、来年^{らいねん}29年度^{ねんど}は後半戦^{こうはんせん}に入^{はい}ってくるかと思^{おも}いますけれども、引き続き^{ひきつづ}御議論^{ごぎろん}、御審議^{ごしんぎ}等^{とう}をお願^{ねが}いできればと思^{おも}います。本日はどうもありがとうございました。ございました。

司会^{しかい}

それでは、これもちまして第3回^{だい}第6期^{かいだい}幸区^{さいわいく}区民会議^{くみんかいぎ}を終了^{しゅうりょう}させていただきます。本日はどうもありがとうございました。

18:58 閉会^{へいかい}